

## 研究結果報告書

### 絵本の朗読が台湾人児童の日本語習得に及ぼす影響に関する研究

所属：東呉大学 外国語学部 日本語学科

役職：副教授

氏名：許 夏珮

本研究では、ある私立小学校に在学する1年生～3年生の台湾人児童10名を対象にし、2015年4月から2016年3月まで週に1回50分の日本語の朗読授業を行った。日本語母語話者の教師が絵本を朗読し児童に聞かせ、次に児童が朗読するという手順で授業を進めた。それぞれの児童に対し月に1回追跡調査を行い、1年間の授業が終了した時点で日本語母語話者のインタビューにより日本語の習熟度を測定した。

すべての児童は日本語の学習経験がなく、最初の段階において教師の発音を真似して発音するのが精一杯であった。絵本に書かれたひらがなを認識することができるようになったのは朗読を始めてから3ヶ月後のことであった。月に1回行った追跡調査では、授業で教師の後について朗読した絵本を自分で内容を読み上げることができるかどうかを確認した。ほとんどの児童は3ヶ月目まで先生による朗読の発音を暗記して、そのまま朗読するというストラテジーをとっていたが、ひらがなの認識ができてから少しずつ教師の協力がなくても自力で絵本の朗読ができるようになった。

1年間の授業が終了した時点で行われたインタビューでは、すべての児童が挨拶語や絵本の中に出てきた表現しか言えず、自分の言いたいことが言えるようなレベルまで達していないことが分かった。それは、学習時間数が少く、授業以外の時間に日本語を使うチャンスがないことと、生活環境の中で日本語のインプットがないことが原因だと考えられる。

日本語の朗読授業が行われた1年間に、児童たちは同じく朗読という方法で中国語と英語を身につけている。しかし、復習もかねて毎日1時間以上中国語と英語の古典名作の朗読をしているのに対し、日本語の朗読は週に1回しかないため習得がそれなりに遅くなると考えられる。今後、日本語の朗読時間を増やすことで習得を促すことができるかどうかを検証したい。

研究成果の公表について

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

「絵本の朗読が台湾人児童の日本語習得に及ぼす影響に関する研究」許夏珮・日本語教育研究会・2016年9月・東呉大学

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)